

【用語】瓦銅・鋳銅―瓦・鋳の原料銅 棹銅―長崎より輸出するためとくに棹状に延べた銅 丁銅―製錬された銅、瓦板や小道具類の原料銅 池田新兵衛―幕府の銅山奉行 亀岡村―新田郡尾島町

【解説】足尾銅山で採掘された幕府御用銅は、近世前期には銅山街道の沢入・花輪・大間々の継ぎ場を経て利根川の平塚河岸（境町）へ搬出され、そこから舟運を利用して江戸へ回送された。その後、笠懸野新田の開発、利根川からの積み出し河岸の変更、さらに継ぎ場の変更などもあって、寛文年間には笠懸新田町（のちの大原本町）の西村家、元禄年間には亀岡村の高木家、そして延享三年（一七四六）には大間々に代わって桐原村の藤生家が新たに銅問屋を務めることになった。また利根川の積み出し河岸も元禄年間に平塚河岸から下流の前島河岸（尾島町）へ変更になった。こうして御用銅は江戸時代中期以降、足尾から沢入・花輪・桐原・大原本町・亀岡の五カ村を継ぎ場とし、前島河岸から江戸浅草の幕府御用蔵へ納められたのである。

この文書は、元禄十三年（一七〇〇）の一年間に前島河岸から浅草の御用蔵まで積み廻した銅荷物の総量を、亀岡村の銅問屋高木源内が銅山奉行へ届け出たもので、高木家は銅問屋と河岸問屋を兼ねていたと思われる。なお、前島河岸は新田郡内の御用林から伐り出された薪の積み出しも行っており、御用荷物の輸送に大きな役割を果たしていた。